

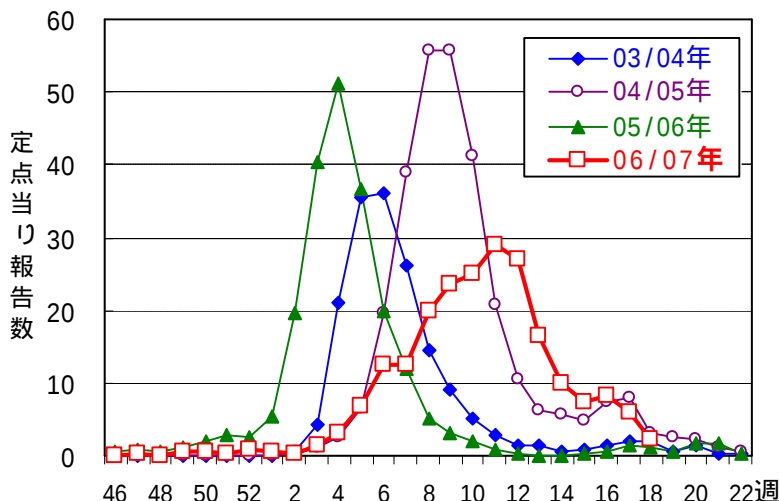
■ コメント

第18週はゴールデンウィークのため、医療機関の休診日が多く、全般に報告数が少なくなっています。

このことを考慮して、「5類感染症報告状況」(下表)の発生記号は表示していません。

なお、インフルエンザは減少傾向と考えられますが、例年同時期と比べてかなり多く、連休後も引き続き注意が必要です。

インフルエンザ



■ 5類感染症報告状況 (定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	81	2.19	1.27		麻疹(注3)	-	-	0.01	
咽頭結膜熱	5	0.21	0.23		流行性耳下腺炎	1	0.04	1.06	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14	0.58	1.27		RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	96	4.00	6.54		急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	36	1.50	1.68		流行性角結膜炎	6	0.75	0.85	
手足口病	5	0.21	0.56		細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	5	0.21	0.21		無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
突発性発疹	4	0.17	0.47		マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.20	
百日咳	1	0.04	-		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風疹	-	-	0.01		成人麻疹	-	-	-	
ヘルパンギーナ	6	0.25	0.11						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.15～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1)過去5年間(RSウイルス感染症は3年間)の同時期平均(定点当り)
(注2)鳥インフルエンザを除く
(注3)成人麻疹を除く
(注4)オウム病を除く

■ 1類～5類感染症報告状況 (全数把握対象分)

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	1	17	女性(80歳代)
4	レジオネラ症	1	2	男性(70歳代)

■ 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

		インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱 A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
報告数	広島市	第14週	365	15	34	194	34	4	3	10	1	-	6	-	8	-	10	-	-	-	-
		第15週	270	7	24	162	55	3	5	17	-	-	3	-	1	-	6	-	-	3	-
		第16週	300	9	41	169	28	2	6	14	-	-	5	-	5	-	9	-	-	7	1
		第17週	226	13	36	179	45	3	4	12	-	-	2	-	2	-	2	-	-	6	-
		第18週	81	5	14	96	36	5	5	4	1	-	6	-	1	-	6	-	1	-	-
定点 当り	広島市	第14週	9.86	0.63	1.42	8.08	1.42	0.17	0.13	0.42	0.04	-	0.25	-	0.33	-	1.25	-	-	-	-
		第15週	7.30	0.29	1.00	6.75	2.29	0.13	0.21	0.71	-	-	0.13	-	0.04	-	0.75	-	-	0.43	-
		第16週	8.11	0.38	1.71	7.04	1.17	0.08	0.25	0.58	-	-	0.21	-	0.21	-	1.13	-	-	1.00	0.14
		第17週	6.11	0.54	1.50	7.46	1.88	0.13	0.17	0.50	-	-	-	0.08	0.08	-	0.25	-	-	1.00	-
		第18週	2.19	0.21	0.58	4.00	1.50	0.21	0.21	0.17	0.04	-	0.25	-	0.04	-	0.75	-	-	0.14	-
全国	第16週	6.22	0.28	2.10	7.34	1.66	0.18	0.80	0.68	0.01	-	0.06	0.02	0.43	0.02	0.74	0.01	-	0.48	-	0.09
	第17週	5.53	0.38	2.36	7.44	2.00	0.25	0.82	0.66	0.01	0.01	0.08	0.03	0.41	0.03	0.75	0.01	0.01	0.41	0.02	0.05

(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

■ 新たに判明した病原体検査結果

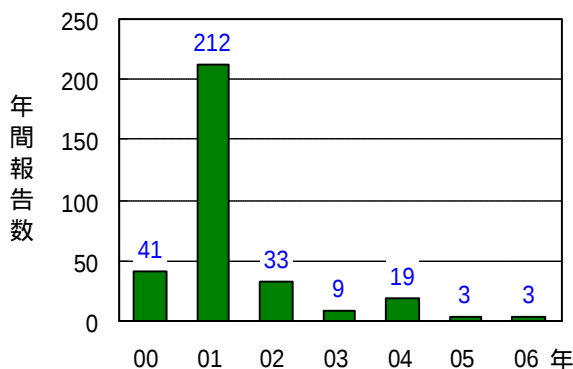
診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	3	男	2007/04/08	咽頭拭い液	インフルエンザA(H1)型
インフルエンザ	28	男	2007/04/10	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	3	女	2007/04/12	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	57	男	2007/04/16	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	9	男	2007/04/16	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	4	女	2007/04/16	咽頭拭い液	インフルエンザA(H1)型
インフルエンザ	9	男	2007/04/16	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	8	男	2007/04/16	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	5	女	2007/04/17	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
インフルエンザ	4	女	2007/04/17	咽頭拭い液	インフルエンザA(H1)型
喘息様気管支炎	2	女	2007/04/15	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス

● インフルエンザウイルス検出速報

5月判明分 (検体採取日 2007年4月8日～4月18日)

	散发 (病原体定点より搬入)				集団かぜ				合 計			
	Aノ連	A香港	B	散发計	Aノ連	A香港	B	集団計	Aノ連	A香港	B	合計
5月判明分	3	7	0	10	0	0	0	0	3	7	0	10
今シーズン計	13	60	31	104	0	0	5	5	13	60	36	109

【参考】広島市における麻しんの年間報告数の推移



現在、東京都や埼玉県を中心とした南関東地域で麻しんが流行しています。広島市では、2001年に比較的大きな流行がありました。2002年以降は目立った流行はみられていません。2007年は第18週までに、麻しんが3人 (1歳、7歳、10～14歳)、成人麻しんが1人 (18歳) 報告されています。

しかし、麻しんの感染力は非常に強く、麻しんの免疫を持たない集団で麻しんが発生すると、急速に感染が拡大するため注意が必要です。予防のためには予防接種が有効ですので、定期予防接種の対象年齢であるお子さんは、できるだけ早く予防接種を受けるようにしてください。

予防接種についてのお問合せは、各区健康長寿課へ

(注) グラフは、小児科定点医療機関24か所からの報告数であり、成人麻しん (15歳以上) は除かれています。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2007年第18週 (4月30日～5月6日)